Japanese Hip Society

2017/9
日本股関節学会ニュースレター
第３号

海外研修帰朝報告 スイス・アメリカ

平成 30 年度海外研修制度と募集要項

第 43 回学術集会を開催して

第 44 回学術集会のご案内

第 3 回教育研修セミナーご案内

第 27 回大正富山 Award 受賞者

日本股関節学会の役割

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2017/9
第３号

3　目次
5　理事長ご挨拶
7　第43回日本股関節学会学術集会を開催して
8　第44回日本股関節学会学術集会のご案内
11　第３回教育研修セミナーご案内
12　海外研修帰朝報告
15　平成30年度海外研修制度と募集要項
16　第27回大正富山Award 受賞者
18　平成30年、31年の学術大会大会長
　　インタビュー＆メッセージ
20　役員一覧①・新理事よりご挨拶
22　役員一覧②
24　入会案内
26　編集後記

日本股関節学会ニュースレター（第３号）
理事長ご挨拶

日本股関節学会 理事長　久保 俊一

京都府立医科大学大学院 運動器機能再生外科学　教授

日頃から日本股関節学会の運営にあたり、多大なご協力をいただき感謝申し上げます。この度、ニュースレター第３号を発刊する運びとなりましたので、一言ごあいさつ申しあげます。ここ数年、学会としては、新しい疾患概念であるFemoroacetabular Impingement (FAI) に焦点をあて、診療指針を作成したほか、変形性股関節症ガイドラインの改定にあたりFAIの章を新設してやや未秩序であったFAIの診療について整理してまいりました。本年に入ってからは、本邦でのFAIの実態を明らかにするため、学会の事業として疫学調査をはじめております。この事業は、日本整形外科学会のプロジェクト研究としても採用され、現在、多施設共同研究がスタートしております。数年後には、本邦から明確な診断基準が世界に先駆けて発信されるものと期待しております。

学会として重要なテーマとして会員の教育があります。一昨年より始めました股関節学会セミナーには毎年200名を超える若い先生方の応募をいただき、参加者の方々からは繰り返し受講したいとの声をもらっております。本年のセミナーも、強力な講師陣を用意して学会前日に開催いたします。詳しくは本レターの案内をご覧の上、多数の参加をお待ちしております。海外研修制度にも、たくさんの応募がありました。厳正な審査と面接を経て選出された先生方にはアメリカとスイスで研修していただきました。留学された先生方の体験談は本レターに掲載しております。今後もふるってご応募をお願いしたいと思います。

技術研修に関しましては、股関節鏡手術の技術認定制度の整備を進めております。昨年のニュースレターでも触れましたが、H28年度の診療報酬改定で股関節学会が中心となって提唱した関節鏡下股関節唇形成術（K080-6）が認められました。股関節鏡下手術について、股関節学会がその質を担保していかなればいけないという状況が生じ、学会として技術認定制度を創設していくきっかけとなりました。最終的な制度案のご案内は本年10月の学術集会を予定しております。

日本股関節学会は昭和49年に発足して以来、大きく成長してまいりました。昨年度には会員数が3000名を超え、日本整形外科学会の関連学会の中では最も大きい一つに数えられています。社会的責任も大きくなってきました。組織の社会的な信用を増す法人化は大きな課題でしたが、理事会や評議員会の意見は集約され、その準備がほぼ整いました。本年の学術集会で皆さんの賛同をいただき、来年度のスタートを目指していきたいと思います。

日本の股関節学の向上に今後とも努力をしてまいります。引き続き会員の皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

第43回日本股関節学会学術集会を開催して

会長　飯田 寛和
関西医科大学整形外科教授

第43回日本股関節学会学術集会を平成28年11月4日（金）及び5日（土）の2日間、大阪国際会議場にて開催させて頂きました。 股関節学会となってちょうど30年ということもあり本会のテーマを“Back to the Future” とさせて頂きました。股関節疾患の治療は長期にわたる経過に基づいて反省と発展を遂げるものであり、今から30年前に考えたことを今の時点から振り返って頂くため、特別企画として股関節外科医として長年の経験を有する先生方に「30年前の私と今」といったタイトルで上記趣旨に沿ってお話し頂きました。

招待講演では、人工関節登録制度の問題に関してInternational Society for Arthroplasy Register の第一回会長であるNorwayのOve Furnes 教授、再置換術において重要な役割を持つImpaction Bone Grafting発祥の地NeimegenからBW Schreurs教授、最近のトピックスであるFemoro-Acetabular Impingementの権威SwitzlandのMichael Leunig教授、長くWrightington病院に勤務され英国医療事情に詳しい長井肇先生を招聘ました。

シンポジウムでは、「人工股関節とイノベーション― 過去、現在、未来 ―」、「ステロイド性大腿骨頭壊死症の新しい予防と治療」、「成人への橋渡しとしての小児股関節治療」、「JHEQによる評価」、「人工関節レジストリーの運用と活用」、パネルディスカッションとして「インターネット時代の股関節治療」、「ボーダーライン寛骨臼形成不全の外来診療」、「臼蓋形成術（棚形成術）のリバイバル」、「股関節鏡治療の光と影」、「寛骨臼骨折の診断と治療」、「難易度の高いサルベージ手術」を、リハビリテーション部門ではシンポジウム「運動療法と股関節負荷」と、パネルディカッション「股関節疾患の評価とパフォーマンス」、看護部門では「THA術後のケアのスタンダードを知ろう」を企画していただきました。いずれも股関節治療において課題となっているトピックスであり、充実した議論がなされました。

一般演題は849演題応募頂きました。そのうち、医師部門の655題は評議員の先生方に査読して頂き、採用を公募シンポジウム、パネルディスカッションで26題、口演329題スペシャルポスター8題、ポスター282題とさせて頂きました。 リハビリ・看護部門は口演152題、ポスター42題 を採用させて頂きました。優秀ポスター賞には金沢医科大学の市堰徹先生、大正富山アワードには北里大学の福島健介先生が選ばれました。お陰様で2日間で1947名の参加があり、大変盛況かつ活気に満ちた学会となりましたことを深謝致します。

開催告知

第44回日本股関節学会学術集会

今年（2017年）10月20～21日に開催する第44回日本股関節学会学術集会について

会長　山本 謙吾
東京医科大学整形外科学分野 主任教授

この度、第44回日本股関節学会学術集会を平成29年10月20日（金）と21日（土）の2日間にわたり、東京新宿の京王プラザホテルで開催させていただきます。東京医科大学といたしまして初めて本学術集会を開催させていただくことは、大変名誉なことであり、光栄に存じます。ひとえに会員の皆様のおかげと心より感謝いたしております。

股関節学は整形外科学において極めて古い歴史を有し、その疾患対象も先天疾患、感染症、外傷、変性疾患、腫瘍等非常に多彩です。そして新生児から高齢者に至るまで全年齢層にわたります。従って股関節学を目指そうとする医師は極めて広い領域の知識、技量を習得する必要に迫られています。特に近年は整形外科学領域においても様々な技術革新が進み高度な先端技術が臨床応用されるようになり、診断面、治療面において吸収すべき内容が急速に増大しています。従って日々の診療と最新技術の習得を常に両立させていかねばなりません。

近年整形外科を志す若者たちを拝見していますと、知識の豊富さ、有している情報量の多さにはしばしば驚かされます。一方で、結果を性急に追求することに奔走し、診察手技の理論や数ある手術手技の中でその手技が認められるようになった経緯などを理解しないままに知識やスキルを獲得しようとする傾向が目に付くことがあります。外科医として臨床の種々の現場において冷静に状況を把握し、迅速かつ適切に医療を実践するための技量を習得するには、基本的な思考や修練を反復することが不可欠であり、捷径を求めることにとらわれて基本習熟を怠ったままでは不測の状況に対処する能力の低下を招きかねません。また股関節学を志す者は手術的治療にのみ傾注せず、多くの保存治療や外科治療前後のリハビリテーションを理解して適応する基本的能力も身につけなくてはなりません。

このような思いから今回の学術集会のテーマを「Stick to the basics」とさせていただきました。基本に従う「follow the basics」にとどまらず、「stick to the basics」つまり基本にあくまでもこだわるということを強調したいと思います。

股関節を専門分野とするからには、必ず理解し、把握し、そして実践できるようになっていてもらいたい基本的知識、技術そして思考過程を学ぶための講演、シンポジウム、パネルディスカッション等を企画させていただきました。医師のみでなく、股関節医療に携わる看護師、理学療法士、臨床検査技師をはじめとしたすべてのメディカルスタッフの方々に、基本にこだわった股関節学を学び、実践していただくための足がかりとなるような学術集会となるよう努力いたしたいと思いますので、どうぞ是非多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

第44回
日本股関節学会学術集会

開催概要

テーマ	**Stick to the Basics**
会期	**2017年10月20日（金）・21日（土）**
会場	**京王プラザホテル　東京都新宿区西新宿 2-2-1**
会長	**山本 謙吾（東京医科大学整形外科学分野 主任教授）**

おもなプログラム

10月20日金曜日	特別講演	股関節学の展望 ◉久保 俊一（京都府立医科大学大学院　運動器機能再生外科学（整形外科）） The challenge of the diagnosis of infected THA ◉ Luigi Zagra（Hip Department, IRCCS Istituto Ortopedico Galeazzi, Milan, Italy）
	招待講演 1	Do Ceramics in Total Hip Arthroplasty Mitigate PJI ◉ Daniel Kendoff （Center for Orthopedics and Trauma Surgery, Helios Klinikum Berlin Buch, Berlin, Germany）
	招待講演 1	人工関節摺動面の進歩と未来への展望 ◉ G. Pezzotti（京都工芸繊維大学）
	招待講演 2	人工関節デザインの進歩と未来への展望 ◉岡崎 義光（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）
	招待講演 2	特発性大腿骨頭壊死症に関する Basic Knowledge
	シンポジウム 1	人工股関節長期耐用性における課題と展望
	シンポジウム 2	大腿骨頚部骨折手術の適応と基本手技
	パネルディスカッション 1	静脈血栓塞栓症のマネジメントの基本
	パネルディスカッション 2	股関節唇縫合術の適応と手術手技
	パネルディスカッション 3	股関節の解剖
	知っておくべきシリーズ 1	股関節手術における合併症対策
	知っておくべきシリーズ 2	変形性股関節症の基礎知識
	知っておくべきシリーズ 3	
10月21日土曜日	招待講演 3	Osteonecrosis of the Femoral Head -Current Issues and Personal Experiences? ◉ Jun-Dong Chang （Arthroplasty Center, Hallym University Dongtan Sacred Heart Hospital, Korea）
	シンポジウム 3	変形性股関節症に対する保存療法の update
	シンポジウム 4	股関節のスポーツ外傷・障害のメカニズムと診断・治療
	シンポジウム 5	小児の股関節痛に対する診断と治療
	シンポジウム 6	人工股関節周囲感染症の予防と診断の基本
	パネルディスカッション 4	グローバルアライメント（脊椎・骨盤・下肢）を考慮した THA 術前計画
	パネルディスカッション 5	寛骨臼形成不全に起因する OA に対する関節温存手術の適応と長期成績
	パネルディスカッション 6	人工股関節再置換術の基本手技
	知っておくべきシリーズ 4	発育性股関節形成不全
	知っておくべきシリーズ 5	人工関節置換術の手術手技
	知っておくべきシリーズ 6	特発性大腿骨頭壊死の基礎知識
	知っておくべきシリーズ 7	股関節鏡手術

第３回日本股関節学会
教育研修セミナーご案内

日本股関節学会
ニュースレター

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

日　時：平成 29 年 10 月 19 日（木）　10：25 ～ 15：05

会　場：京王プラザホテル
（〒 160-8330 東京都新宿区西新宿 2-2-1）

参加費：10,000 円
参加数：200 名
単　位：日本整形外科学会教育研修単位が認められております。
各セッション 1 単位 , 受講単位は 1 日 4 単位まで取得可能です。
受講料 1 単位 1,000 円

申込方法：第 43 回日本股関節学会学術集会「教育研修セミナー」ページより参加登録してください。
http://www.2017hip.jp/seminar.html

プログラム

10:25 ～ 10:30	開会挨拶	高木 理彰　（セミナー担当理事）
	理事長挨拶	久保 俊一　（日本股関節学会　理事長）
10:30 ～ 11:30	**Ⅰ　解剖／股関節鏡　モデレーター　山本 卓明（福岡大学）**	
	1）股関節内の解剖（関節唇，軟骨，関節内血流，靭帯など）	神野 哲也（東京医科歯科大学）
	2）股関節鏡視における正常所見と異常所見	山崎 琢磨（広島大学）
11:30 ～ 11:40	休憩	
11:40 ～ 12:40	**Ⅱ　人工股関節　モデレーター　中村 琢哉（富山県立中央病院）**	
	1）アプローチ　前側方進入 -pros & cons と手技	徳永 邦彦（亀田第一病院）
	2）アプローチ　後方進入 -pros & cons と手技	青田 恵郎（福島県立医科大学）
12:40 ～ 12:50	休憩	
12:50 ～ 13:50	**Ⅲ　小児股関節　モデレーター　佐々木 幹（山形大学）**	
	1）ペルテス病の診断と治療	赤澤 啓史（旭川荘療育・医療センター）
	2）化膿性股関節炎の診断と治療	稲葉 裕（横浜市立大学）
13:50 ～ 14:00	休憩	
14:00 ～ 15:00	**Ⅳ　骨切り術　モデレーター　伊藤 浩（旭川医科大学）**	
	1）寛骨臼側の骨切り術	原 俊彦（飯塚病院）
	2）寛骨臼回転骨切り術　原理と手技	安永 裕司（広島県立障害者リハビリテーションセンター）
15:00 ～ 15:05	閉会挨拶	久保　俊一（日本股関節学会　理事長）

日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告

Boston Children's Hospital

鉄永 智紀 岡山大学病院 整形外科 助教

（てつなが・とものり）
岡山大学病院整形外科助教。
平成15年岡山大学医学部医学科卒業後、岡山市立市民病院、岡山大学病院、岡山医療センターなどで勤務。
平成22年に医学博士取得。専門は股関節外科、小児整形外科など。運動器疼痛の診断、治療にも詳しい。
趣味は野球、サッカーなどのスポーツ観戦。

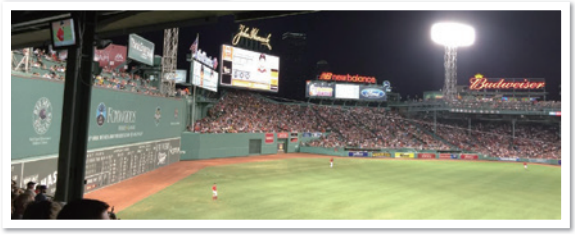
研修先：Boston Children's Hospital　研修期間：平成28年年6月1日～8月26日

写真左より
Boston Children's Hospital
Kim先生と手術室にて
PAOの骨モデル

Millis先生ご夫妻とのディナー

平成28年6月～8月までアメリカマサチューセッツ州のBoston Children's Hospitalで研修させて頂きました。研修中はMichael Millis先生、Young-Jo Kim先生を始め多くの先生方にお世話になりました。Boston Children's Hospitalは発育性股関節形成不全(DDH)、ペルテス病、大腿骨頭すべり症などの小児股関節疾患を始め、寛骨臼形成不全、femoroacetabular impingement (FAI)などの思春期から成人に至る股関節疾患まで幅広く治療を行っています。3ヵ月間の研修は手術・外来を中心としたものであり、日本では中々経験できない症例数を短期間で経験でき、日本とは異なる治療方針も学ぶことが出来ました。特にMillis先生、Kim先生は1600例を超えるperiacetabular osteotomy (PAO)の経験があり、研修中には約50例のPAOを見させて頂き、手術手技に加え、治療方針決定のためにdelayed gadolinium enhanced MRI of cartilage (dGEMRIC)を利用してPAOの予後予測を行うことなどを学ばせて頂きました。また、欧米人は日本人と異なる大腿骨形態を持つため、FAIに対する股関節鏡手術も多く、3ヵ月間で約80例の鏡視下骨軟骨形成手術、関節唇縫合術を経験できました。

ボストンは歴史のある街であり、非常に街並みもきれいで住みやすい都市でした。ボストン観光や野球観戦も十分でき、3ヵ月という研修期間はとても充実したものであり、あっという間でした。しかし、日本では経験できない異文化、国民性なども経験でき私の貴重な財産となりました。このような貴重な経験をさせて頂きました日本股関節学会、ならびに大変お世話になりました先生方に深く深謝いたします。



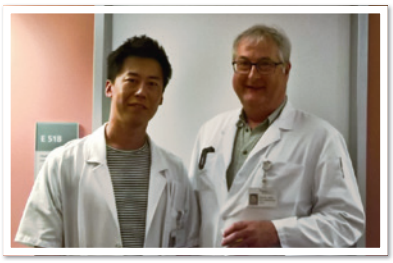
Fenway Parkにてレッドソックスの試合観戦

岡上 裕介 高知大学医学部 整形外科学教室 助教

（おかの・うえゆうすけ）
高知大学医学部整形外科助教。
高知県出身。平成13年高知医科大学医学部卒業後、高知大学医学部附属病院、高知県立幡多けんみん病院等で勤務し、平成26年より現職。専門分野は股関節外科、関節リウマチ、スポーツ外科。
趣味は、お酒・ゴルフ・耳かきなど。
好きな言葉は、「股関節を制するものは整形外科を制する」

研修先：Department of Orthopedic Surgery, Inselspital, Bern University Hospital
研修期間：平成28年年5月～7月

平成27年度より、新たに日本股関節学会海外研修制度がスタートし、その一期生としてに3ヶ月間留学させて頂いた。University of Berneは、Bernese Periacetabular Osteotomy（PAO）やGanz ringの開発、更にはFAIの概念を提唱したGanz教授が主宰されていた教室で、現在はSiebenrock教授に引き継がれている。また、数多くの論文発表や、2年に一度Bernese Hip Symposiumを開催するなど、股関節温存手術に関してヨーロッパ随一の施設であることが知られている。Siebenrock教授をはじめ5人のstaffが股関節の診療にあたっており、週1回の外来診療、残りの日は全日手術日となっている。外来患者、手術症例で一番多いのはFAIであり、外来や手術を通して彼らの股関節温存に対するphilosophyを感じることができた。特にPAO、Anteverting PAO、Surgical dislocation等の手術に交代しながら手洗いをして参加できたのは大変有意義で、多くの刺激をもらった。海外からのfellowも私の他に4人いて、それぞれの国の現況や課題などのDiscussionをしたり、スイスワインを楽しんだ。また、週末にはスイス各地や周辺の国々を巡り、日本とは全く違う風景の中家族と過ごす時間は、何物にも代えがたい一生の思い出となった。最後に、本研修にご尽力を頂いた久保俊一理事長、安永裕司担当理事をはじめ、会員の諸先生方に感謝の気持ちを申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。



Siebenrock教授と

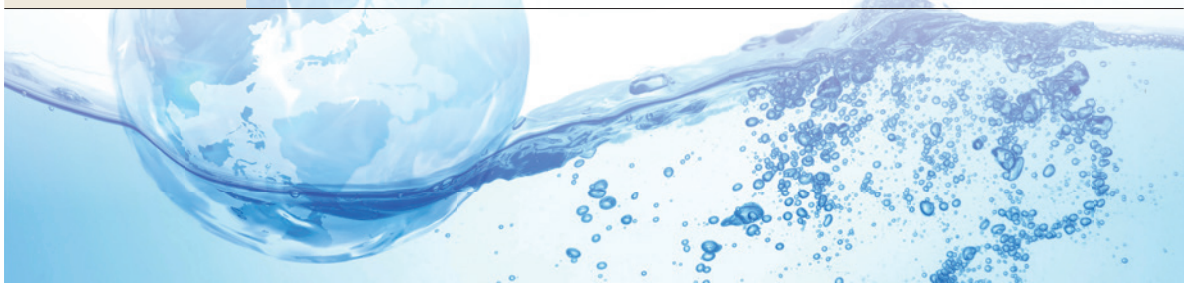
Zermattより
Matterhornを望む

日本股関節学会平成30年度 海外研修制度と募集要項

日本股関節学会
ニュースレター

〔募集要項〕

1）募集人員	2 名
2）研修条件	1．平成 31 年 4 月～平成 32 年 3 月までの間で滞在期間は 3 か月未満を原則とする。 2．海外での滞在施設は、希望する研修分野に応じて学会が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。 3．費用について a. 渡航費用の一部を本学会が援助する。 b. 海外滞在中の滞在費、食費及び移動の費用は原則として応募者の負担とする。 4．帰国後、英語と日本語での報告書の提出ならびに学術集会での帰朝報告を行なう。
3）応募条件	1．応募者は日本股関節学会会員であること。 2．応募者は日本整形外科学会専門医であること。 3．原則として 40 歳を応募時年齢の上限とする。 4．勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。 5．国際学会での発表の経験があり、滞在施設において発表できる研究成果を有するもの。
4）応募に必要な書類	1．日本股関節学会海外研修申請書 (Word 版・PDF 版) 2．履歴書（大学卒業以降とする） 3．応募の動機や抱負について小論文 4．日本股関節学会評議員の推薦状と勤務している大学、病院の施設責任者、勤務先責任者の推薦状（推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること）。 5．業績目録 6．海外研修承諾書 a. 大学勤務 ……教授の承諾書 b. 病院または施設勤務 ……勤務している病院または施設の責任者の承諾書 以上、1（申請書）. 以外の書式は自由であるが、すべて A4 サイズに統一し、上記の順にならべて左上を綴じること。また、コピー 14 部を同封すること。
5）選考方	1．審査は書類選考とする。書類審査の結果は個別に連絡する。 2．必要に応じて面接を行う予定である。 3．合格者は後日改めて英文の履歴書等、海外施設での研修に必要な書類が求められる。
6）申請締め切り	平成 29 年 9 月 30 日必着
7）申し込み先	**日本股関節学会事務局** 〒 100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1　パレスサイドビル 9F　（株）毎日学術フォーラム内 Tel.03- 6267- 4550　Fax.03-6267-4555　E-mail.jhs@mynavi.jp



第27回大正富山Award 受賞者

第43回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。

鈴木 宙 横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学教室（整形学科）

論文名：人工股関節全置換術後５年までの骨盤傾斜と脊椎矢状面アライメントの変化

Q1 受賞した研究活動について教えてください。

人工股関節全置換術において、骨盤傾斜変化の観点から、脱臼しない術前計画を目指して活動してきました。

Q2 受賞後の感想をお聞かせください。

５年間ずっと研究してきたテーマだったので、最終的に素晴らしいご評価をいただき、大変嬉しく思っております。

Q3 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

齋藤知行教授、稲葉裕准教授はじめ、ご指導いただいている先生方にも喜んでいただけたので、少しでも恩返しができて良かったです。

Q4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

大変光栄な賞をいただき、身が引き締まりました。

Q5 今後の展望についてお聞かせください。

新たなテーマを見つけ、また賞をいただけるような研究ができたらと思っております。

The 27th Taishotoyama Award

福島 健介 北里大学医学部整形外科

論文名：FAIに関する股関節学会診断指針に基づく多施設疫学調査

Q1 受賞した研究活動について教えてください。

2015 年に日本股関節学会 FAI ワーキンググループによって FAI の診断指針が提唱されました。そこで、本指針の検証という意味も含めて、本指針に基づいて FAI と診断される患者がわが国でどのくらいいるものかを preliminary な形ではありますが調査し、報告致しました。

Q2 受賞後の感想をお聞かせください。

股関節外科に従事している身として、本賞の受賞は 1 つの目標であったので本当に嬉しく、光栄に存じます。本研究の趣旨にご賛同いただき、多施設共同研究にご参加いただきました九州大学、広島大学、横浜市立大学、神戸大学、東京慈恵会医科大学の先生方に心より御礼を申し上げます。

Q3 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

日頃よりご指導いただいています高平尚伸教授、内山勝文准教授をはじめとする上司、同僚、同門の先生方から多くのお祝いの言葉をいただきました。また、この受賞に関しては医学部報にも報告させていただいたので、同期や学内他科の先生方からも反応がありました。

Q4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

診療ガイドラインの仕事に関わらせていただいたことをきっかけに大きく感じるようになりましたが、「エビデンスを作る」という作業にさらなる興味がわいてまいりました。

Q5 今後の展望についてお聞かせください。

現在、股関節学会主導で本研究を更に大きく発展させた FAI に関する全国疫学調査が準備されています。この受賞を励みに更に研究に尽力してまいる所存です。

平成30年、31年の学術大会 大会長インタビュー&メッセージ

日本股関節学会
ニュースレター

愛知県

第45回 日本股関節学会（平成30年）

会 期　平成30年10月26日（金）・27日（土）
会 場　名古屋国際会議場
会 長　藤田保健衛生大学整形外科　山田 治基　教授

学術大会のテーマや目的などについて今お考えの構想などを少し教えてください。

第45会日本股関節学会学術集会のテーマは「青は藍より出でて」としました。このことわざは荀子の言葉で、「青は藍より出でて藍より青し」が全文です。「藍」とは、染料に使う藍草のことで、藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となるので、その関係を弟子と師匠にあてはめて、弟子が師匠の学識や技術を越えるという意のことわざです。学問や努力により持って生まれた資質を越えることができるということを示すと言われています。日本の股関節学は過去に大変、高名な先生方の指導により大きく発展しましたが、どんどん若手が出て、新しい方向へ発展していって欲しいということを示すテーマです。

ご所属の大学、および股関節領域の研究の特色や実績について簡単に教えてください。

藤田保健衛生大学病院における股関節手術の中心はやはり人工股関節置換術が最多です。年間、130例以上と東海三県の大学病院のなかでは最も多い症例を扱っています。結果的に再置換手術症例も多く、ここでは東海骨バンクから供給される同種骨を使用した再置換術を積極的に行っています。基礎的研究としては、変形性関節症の病態を反映し、発症および進行の予知が可能な生物学的マーカーについての研究を東京大学医学部附属病院22世紀医療センターロコモ予防学講座および藤田保健衛生大学総合医科学研究所との共同研究として長年、行っています。画像を超える生物学的マーカーの開発が夢です。

第45回大会は名古屋開催ですが、名古屋の魅力や観光スポット、特産品などを教えてください。

名古屋は産業都市であり、観光名所といったものは特に有名なものに乏しいと言われています。ただ、日本の近代化の歴史のなかで織物、陶器、航空機、自動車などのものづくりの産業を創出してきたわけですが、その産業を支えてきた機械を実際に動く状態で展示しているトヨタ産業技術記念館などは、メカのお好きな先生は、大変、喜ばれるかもしれません。私も一日、飽きずに見学しました。また、蒸気機関車から新幹線、そして超電導リニアまでを数多く展示しているリニア・鉄道館もいわゆる鉄道マニアでなくても一見の価値のある所と思っております。食べ物はいわゆるB級グルメとしてよく知られている、味噌カツ、ひつまぶし、手羽先などがありますが、これらは全員懇親会で味わっていただけるように企画しております。

会員の方へのメッセージをお願いします。

学術集会のテーマを「青は藍より出でて」としました。若い先生方に将来、先輩を越えて行けるように、多くのものを持ち帰っていただけるような企画、内容にしたいと思っております。是非、ご参加くださるようお願い申し上げます。

宮崎県

第46回 日本股関節学会（平成31年）

会 期　平成31年10月25日（金）・26日（土）
会 場　シーガイアコンベンションセンター
会 長　宮崎大学整形外科　帖佐 悦男　教授

ご所属の大学、および股関節領域の研究の特色や実績について簡単に教えてください。

基礎研究は、寛骨臼形成不全やFAIなどの遺伝子解析、バイオメカニクス研究や画像解析などを中心に実施しています。臨床は、小児から高齢者、外傷（骨盤骨折、大腿骨近位部骨折を含む）から変性疾患・関節リウマチ、スポーツ傷害や腫瘍を扱っています。

第46回は宮崎で開催すが、宮崎の魅力や観光スポット、特産品などを教えてください。

宮崎は“太陽と緑の国”、“神話の里”とも呼ばれており、宮崎神宮、シーガイア周辺のみならず西都や高千穂は「古事記」「日本書紀」に登場する天孫降臨や天岩戸開きの地でもあります。海に関しては、青島、堀切峠、鵜戸神宮など、山に関しては、霧島、祖母山などがあります。飲食物は、宮崎牛、地鶏、日向夏、マンゴー、焼酎など日本一の特産品があります。

会員の方へのメッセージをお願いします。

宮崎にて学会期間中は、股関節学に関する知識・技術の習得や会員相互の交流をして頂き、プログラム以外の時間帯では、宮崎の景色や食を堪能して頂ければと思います。

日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

日本股関節学会
ニュースレター

役職	会員氏名	所属・職名
理事長	久保 俊一	京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学　教授
副理事長	杉山 肇	神奈川リハビリテーション病院整形外科　院長
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科学講座　教授
	川手 健次	奈良県立医科大学整形外科　教授
	菅野 伸彦	大阪大学大学院運動器医工学治療学寄附講座　教授
	須藤 啓広	三重大学医学部整形外科学教室　教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科学講座　教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科　教授
	馬渡 正明	佐賀大学医学部整形外科学教室　教授
	安永 裕司	広島県立障害者リハビリテーションセンター　所長
	山田 治基	藤田保健衛生大学整形外科　教授
	山本 謙吾	東京医科大学整形外科　教授
監事	遠藤 直人	新潟大学医学部整形外科　教授
	小宮 節郎	鹿児島大学医学部整形外科　教授
学術理事	稲葉 裕	横浜市立大学医学部整形外科　准教授
	大川 孝浩	久留米大学医療センター整形外科・関節外科センター　教授
	神野 哲也	東京医科歯科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 部長・准教授
	高平 尚伸	北里大学大学院医療系研究科整形外科学　教授
	中島 康晴	九州大学医学部整形外科学教室　教授
	中村 琢哉	富山県立中央病院整形外科　部長
	三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科学　教授
	山本 卓明	福岡大学医学部整形外科学教室　教授

新理事よりご挨拶

新たに就任した理事から会員の皆様へのメッセージです。

伊藤 浩

旭川医科大学整形外科学講座教授　専門分野：股関節外科

整形外科の中で股関節外科学は最も古い歴史を持ち、伝統ある日本股関節学会は諸先生方のご努力により股関節学の発展に多大な貢献を積み重ねております。この度理事という大任を拝命し、学会の発展に貢献すべく努力致しますので、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

馬渡 正明

佐賀大学医学部整形外科主任教授　専門分野：股関節外科全般　生体材料　骨軟骨代謝

日本股関節学会の新理事として、より有効で効率的な股関節疾患の治療を追求することはもちろん、若手会員の育成と様々な啓蒙活動を行うことで、股関節疾患に悩む人々への福音になれるように努力します。

日本股関節学会役員一覧②

日本股関節学会役員をご紹介します。

名誉会員

赤松 功也
東 博彦
石井 良章
糸満 盛憲
井上 明生
井村 慎一
岩田 久
進藤 裕幸
祖父江 牟婁人
高岡 邦夫
田中 清介
鳥巣 岳彦
内藤 正俊
中川 正
浜田 良機
稗田 寛
船山 完一
松永 隆信
松野 丈夫
宮岡 英世

評議員

青田 恵郎
赤木 將男
秋山 治彦
阿久津 みわ
阿部 功
安保 雅博
飯田 哲
伊賀 敏朗
池内 昌彦
石井 政次
石堂 康弘
石橋 恭之
伊藤 浩
伊藤 芳毅
稲葉 裕
今井 晋二
岩崎 倫政
岩瀬 敏樹
岩田 憲
上島 圭一郎
内田 宗志
内山 勝文
江川 洋史
遠藤 直人
大川 孝浩
扇谷 浩文
大谷 卓也
大塚 哲也
大塚 博巳
大橋 弘嗣
大原 英嗣
大山 正瑞
大湾 一郎
岡野 邦彦
岡野 徹
尾崎 敏文
尾崎 誠
織田 弘美
加来 信広
柁原 俊久
片山 直行
金治 有彦
兼氏 歩
金子 和夫
加畑 多文
加谷 光規
苅田 達郎
川手 健次
川那辺 圭一
河村 春生
北川 由佳
金 潤澤
久保 俊一
古賀 大介
小久保 安朗
後藤 昌子
小林 千益
小林 直実
小宮 節郎
斎藤 修
斎藤 充
西良 浩一
三枝 康宏
坂井 孝司
澤口 毅
宍戸 孝明
神宮司 誠也
神野 哲也
菅野 伸彦
杉山 肇
須藤 啓広
瀬川 裕子
高木 理彰
高取 吉雄
高平 尚伸
田口 敏彦
武石 浩之
田中 栄
田中 千晶
種市 洋
玉井 健介
帖佐 悦男
土屋 弘行
津村 弘
出家 正隆
土井田 稔
徳永 邦彦
中島 康晴
中村 茂
中村 琢哉
中村 健
中村 宣雄
中村 正則
中村 吉秀
名越 智
西井 孝
西田 圭一郎
西山 隆之
野沢 雅彦
長谷川 正裕
蜂谷 裕道
原 俊彦
原田 義忠
兵頭 晃
平川 和男
廣瀬 士朗
福田 寛二
藤井 玄二
藤井 英紀
藤岡 幹浩
藤田 裕
星野 裕信
堀内 忠一
前田 ゆき
間島 直彦
松下 功
松田 秀一
松原 正明
馬庭 壯吉
馬渡 正明
三島 初
水田 博志
三谷 茂
三ツ木 直人
湊 泉
宮川 俊平
宮西 圭太
宗本 充
森 諭史
森田 充浩
森田 裕司
安永 裕司
柳本 繁
山崎 琢磨
山田 晋
山田 治基
山本 謙吾
山本 卓明
山本 哲司
湯朝 信博
吉田 宗人
脇阪 敦彦
和田 郁雄

学術評議員

石田 雅史
大鶴 任彦
大橋 寛憲
岡上 裕介
楫野 良知
鎌田 浩史
佐々木 幹
山藤 崇
園畑 素樹
高尾 正樹
高田 亮平
田中 健之
中村 順一
西脇 徹
橋本 慎吾
林 申也
羽山 哲生
福島 健介
藤原 憲太
箕田 行秀
三村 朋大
山本 泰宏
渡邊 宣之

入会案内

日本股関節学会
ニュースレター

■会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の発表者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■会費

正会員	医師　10,000 円
準会員	医師以外　5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体　50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の発表者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）入会当該年度 のみの登録　5,000 円

入会手続き

ご入会を希望される方は、以下より申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。なお、ダウンロードできない場合には、郵送いたしますので、申込先までご連絡ください。
手続きに際しては必ず会則をご一読ください。

1. 入会申込書の記入について

入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
準会員での入会の場合は、可能な限り正会員 1 名の推薦をお願いしております。
推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名ご記入ください。
臨時会員の入会は、当該年度のみの登録となります。
例 . 第 44 回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第 44 巻 Suppl. 誌に投稿の場合、当該年度（2017 年度：2017 年 9 月 1 日～ 2018 年 8 月 31 日）のみの登録となります。
本会の会計年度は、9 月～ 8 月です。
記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

2. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1 ヵ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

3. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員　→　Hp より pdf ダウンロード
賛助会員　→　HP より pdf ダウンロード

4. 自動振込申込について

自動振込をご希望の方は，以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印のうえ、下記申込先まで郵送してください。
＊入会初年度は、学会事務局よりお送りする年会費請求書（払込用紙）にて送金 手続きをお願いします。自動振込の取扱いは次年度からの適用となります。
＊届出印相違により，自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。

自動振込用紙　→　HP よりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係
〒 100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階
（株）毎日学術フォーラム内
TEL : 03-6267-4550　FAX : 03-6267-4555
E-Mail : jhs@mynavi.jp
URL:http://hip-society.jp/

Japanese Hip Society 日本股関節学会ニュースレター
2017/9 第３号

編集後記

日本股関節学会ニュースレターも今回で３号目を発刊することとなりました。多くの会員の皆様方からのご評価に耐えうるような誌面とすべく工夫をしているつもりですがまだまだ不十分であると感じています。しかし時おり他分野の皆様からも本誌を取り寄せてお読み頂いたというお話を伺い大変ありがたく思っております。本年も昨年同様に夏が終わりを迎え学会シーズンの始まる季節の発行となりました。

２年前に発足した本学会海外研修制度も順調に研修が進み、研修を終えられた先生方からも海外研修の意義や重要性を評価していただいております。本号では来年度の研修募集要項とともに２名の先生の帰朝報告を掲載させていただきました。今後海外研修を希望される皆様のご参考にして頂ければ幸いです。また第27回大正富山Awardを受賞された２名の先生のインタビュー記事を掲載させていただきました。地道に続けてこられた研究成果が脚光を浴びる喜びを語っておられます。本学会誌HIP JOINTへの論文投稿がますます盛んになってくれることを期待したいと思います。

また２年前から秋の股関節学会学術集会の際に開催しております教育研修セミナ―の本年度のプログラムが決まりましたので掲載させていただきました。昨年も受講者は200名を超え、股関節学を志す若者の熱意を大変心強く感じます。是非今年も多数のご参加をお待ちします。

今後も会員の方々に有用な情報をお伝えし、さらに会員の皆様からのご意見を確実に反映できるようなニュースレターの作成に努めてまいりたいと思いますので、様々な情報やご希望をお寄せいただければ幸いです。

（担当理事　山本 謙吾）

日本股関節学会ニュースレター第３号　2017年９月号

発行元・お問い合わせ先
日本股関節学会事務局
〒100-0003　東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル９階
（株）毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550　FAX：03-6267-4555
E-Mail：jhs@mynavi.jp
URL:http://hip-society.jp